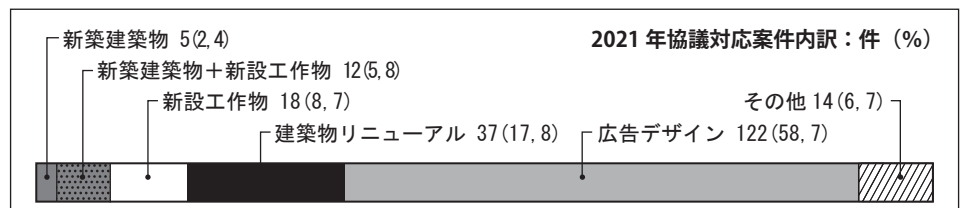


2021年銀座街づくり会議 活動報告 (2021年1月～12月)

銀座街づくり会議では、2021年2月に「銀座デザインルール」第3版を発行しました。街並みのみを扱う従来のルールブックから、交通課題や文化への関わりなど、街をつくる多様な要素へとデザインの領域を広げ、それらを「銀座が取り組み始めている未来に向けたデザイン」と位置付けました。コロナ禍や、思いもよらない世界の動向は、街で人に会うよろこびというごく当たり前のはずの日常を輝かせます。銀座は、銀座に関わる皆様の日常であり、ときには幸せに満ちた非日常にも寄り添える街です。連綿と紡がれてきた商いが途絶えることなく、より一層豊かな価値をもって未来につないでいけるように、私たちは銀座の今と未来の姿を考え続けています。

■2021年1月～12月 デザイン協議案件

2021年の協議件数は、新築建築物(+新設工作物含む)17件、工作物(新設・既存改修)18件、建築物リニューアル37件、広告デザイン変更122件、その他相談14件で、計



208件でした。引き続きデジタルサイネージが問題になっており、ご近隣などからの苦言を受けている店舗もいくつかあります。ファサードデザインは私的な領域であると同時に、街並み、風景という公共の財産をつくる一部です。「にぎわいと風格」という銀座の街づくりの方向性への理解を促しつつ、新しい表現に対する挑戦は尊重し、銀座らしさを更新していきます。

また、広告デザインではジェンダーやレイシズムに関わる表現が議論になりました。街は多様な人々が安心して快適に時間を過ごすことができる場所であり、これは成熟都市の基本的な姿です。日本を代表する商業地であるからには、銀座に関わる私たち自身が視座を高め、異なる社会背景を持つ人々に対して深いまなざしを持ち、世界的な課題に主体的に関わっていくことが求められています。

■「世界と銀座 街の未来を共創するーこれからも街はあり続けるられるか？」シンポジウム開催

2021年11月から2022年1月にかけて開催した3回のシンポジウムでは、バルセロナ、ドイツ、バンコク、パリ、ニューヨーク、ソウルの6都市から都市や建築に関わるの方々にオンラインでご登壇いただきました。インターネットへの移行やコロナ禍での変化を踏まえ、公共空間や商業地の未来についての各所の事例をお聞きしました。2022年はシンポジウムから得た学びをどのように銀座の街に落とし込んでいくか、考えていきます。 ※シンポジウムのアーカイブ動画は街づくり会議WEBサイトからご覧いただけます。

■交通課題への対応

銀座の大きな課題である余剰駐車場の増加と身障者・荷捌き駐車場附置義務問題においては、2021年末に、中央区が実態調査を実施。2022年3月末に調査結果が公表され、実態に基づき具体的な検討に入っていきます。KK線再整備については、2021年3月に東京都に対してパブリックコメントを提出。個性的で魅力的な周辺の街との連携も期待される計画です。ハードやソフトのデザインは、地元や多くの人を巻き込み、協議型で検討していくこと、銀座や京橋、有楽町などの周辺地域がKK線上部の運営と活用に関わる仕組みを担保することなどを要望すべく、2022年も議論を続けていきます。